

〈授業改善推進プラン 令和5年度第1学年 国語科〉

<p>1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村学力調査の問題内容では、「漢字を読む」の目標値 71.7%に対して、校内正答率 50.0%だった。 ・村学力調査の問題内容では、「文学的な文章の内容を読み取る」の目標値 61.7%に対して、校内正答率 50.0%だった。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「漢字を読む」については、令和3年度の当該の授業改善推進プランが策定されていない。 ・「文学的な文章の内容を読み取る」については、令和3年度に当該の授業改善推進プランが作成されていない。 <p>(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「漢字を読む」では、漢字の読み取りや短文の作成を計画的に行っている。 ・「文学的な文章の内容を読み取る」では、読み取ったことを書いたり交流したりしている。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①漢字の読み取りの習熟度を計画的に確認し、個別最適な支援を実践する。</p> <p>②文学的な文章を読み取る習熟度を計画的に確認し、個別最適な支援を実践する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①村学力調査の調査結果で、「漢字を読む」の問題項目の校内正答率が、目標値を5%以上上回っているか確認する。</p> <p>②村学力調査の調査結果で、「文学的な文章を読み取る」の問題項目の校内正答率が、目標値を5%以上上回っているか確認する。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p>個別最適な支援を実施した生徒が授業評価アンケートにおいて、漢字の学習が文章を読み取る学習につながると記述しており、見通しをもって学習に取り組む力を養うことができた。</p> <p><課題></p> <p>今年度重点的に取り組んだ方策について生徒の意欲が高まった一方、授業評価アンケートにおいて、新たに「話すこと・聞くこと」の向上に課題意識をもつ生徒が30%表出し、学習活動の均衡に課題が残った。</p>	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」の向上について他の領域との均衡に留意しつつ、表現活動の充実した授業実践を行う。 ・「文章を書く」活動と「話すこと・聞くこと」の学習活動を関連付け、効果的な授業を実践する。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>「文章を書く」ことや「話すこと・聞くこと」に対する意欲が、らせん的に学力向上に結び付く生徒。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第1学年 社会科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <p>歴史的分野、特に近代から現代史の範囲の理解度に課題がある。</p> <p>例1 ・「日本国憲法」の内容について（正答率41.7% 令和5年度 村学力調査の結果 参照）</p> <p>例2 ・令和5年度本校1学年対象教科アンケート</p> <p>「この教科の学習内容について、現在どの程度理解をしていますか」</p> <p>⇒「だいたいあてはまる」 100%（4名中4名）</p>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">令和3年度における社会科の課題とは関連していない。 <p>(令和3年度社会科における課題は次の2点である。①地図から正しい情報を読み取る。②資料から必要な情報を調べたり、分析したりしてまとめる。)</p> <p>⇒ 本年度の客観的資料として上記した学力調査があるが、調査における問いからでは以上2点の課題が解決できたかは判断できない。(該当する問題がなかったため)</p> <p>ただ、敢えて記すとすれば、4～5月に実施した社会科地理的分野の授業において、地図を用いた範囲における理解度は総じて高かった。(以下に記しているパフォーマンス課題の結果より) この点からは過去の課題がある程度解決できているとも判断できる。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">上記に記したとおり、アンケート結果から『わかっている』ということを前提に、『できる』ための工夫として「基礎的知識を活用し、グループワークを通して多角的・多面的な思考育成するパフォーマンス課題」を小单元ごとに設ける。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①当該学年が2年後に学習をする公民的分野・日本国憲法の学習において、その内容を深めるパフォーマンス課題を設定する。</p> <p>②後期授業評価アンケートを実施する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①左記課題を設け、その結果を分析する。</p> <p>②後期授業評価アンケートを実施の結果を分析する。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p>※上記方策に対する成果を、今年度検証することはできない。ただ、思考力を育成する課題は別の单元にて実施しており、文章の記述内容やアンケート結果からも、多角的な物事の見方・考え方を伺うことができている。</p>	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">1年後に学習をする公民的分野・日本国憲法の学習において内容を深めることを可能とするパフォーマンス課題を、別の单元にて設定し思考力を育成する。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>多面的・多角的な物事の見方や考え方をより一層身に付けている。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第1学年 数学科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・1年生の数学を見ると、全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況であるが、問題の内容は、「百分率」と「面積と体積」に課題があるといえる。特に「百分率」などの割合に関する計算方法はどの単元にも必要となるため、復習が必要である。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">①四則に関して成り立つ性質について理解し、正しく計算をする。②数学的な表現を用いて、自分の考えを簡潔・明瞭・的確に表す。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・「文字と式」の単元において、自力解決で行う問題演習の前に、クイズ形式での理解を促す計算トレーニング。・1次方程式の単元において、ホワイトボードやジャムボードを使用した教え合い活動	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①過去の既習内容の苦手意識を取り除き、間違えたことを隠さず確認していく主体的に学習に取り組む態度を育成する。②自分の考えをまとめ、クラスメイトに共有することで深く理解する。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①小テスト<ul style="list-style-type: none">・実施前と後に行い、定着度を確認する。②ホワイトボードやジャムボードを用いた発表<ul style="list-style-type: none">・発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p>小テストで知識・技能、発表で思考・判断・表現を主に検証し、理解度が増し、上手に伝えることできるようになってきた。</p> <p><課題></p> <p>計算ミスなど、細かいところでのミスが目立つ。</p>	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・途中式など過程での集中力を保つよう指導する。・理解した知識・技能を説明する際に使用するよう促す。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>主体的に学習に取り組み、思考・判断・表現を必要とする問題に取り組み、またそれを級友と教え合えることができる生徒。</p>	

〈授業改善推進プラン 令和5年度第1学年 理科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題 令和5年度村学力調査結果より、次のことが挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「水よう液の性質」「てこのはたらき」の正答率は40%を下回った。どちらも基礎知識の定着が課題である。 ・会話文やまとめられた図、表、グラフ等の資料を読み取る問いに関しては、この単元のみならず全般的に課題が見られる。 ・「活用」の正答率が36.7%であり、日常生活と知識の関連付けが課題である。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章、図、グラフの分析・解釈をグループ内の対話的な活動をより多く設け、生徒の思考・判断・表現する時間を保障する。地表で起きる現象の根底には長い年月、地球内部の変化があり、物質が大きなスケールで循環していることを実感させる指導をする。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「水溶液の性質」は中学校2年生、「力のはたらき」は中学校1年生及び中学3年生で、それぞれ学習することになっている。いずれの内容も、モデル実験や図、映像資料などを活用して、考えるような主体的な学習活動を充実させる。 ・理解していることを活用する練習ができる教材を用いて、周囲の自然現象から思考・応用する問題演習を実施する。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①モデル実験や図、映像資料などを活用して、考えるような主体的な学習活動を充実させる。 ②活用練習ができる教材を用いて、思考・応用する問題演習を実施する。 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①ICTを用いた発表の評価と年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析 ②年間15回程度の小テストと年間3回の定期考査を実施した内容の分析 </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①モデル実験や図、映像資料などを活用して、考えるような主体的な学習活動を充実させる。 ②活用練習ができる教材を用いて、思考・応用する問題演習を実施する。 	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①ICTを用いた発表の評価と年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析 ②年間15回程度の小テストと年間3回の定期考査を実施した内容の分析
<p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①モデル実験や図、映像資料などを活用して、考えるような主体的な学習活動を充実させる。 ②活用練習ができる教材を用いて、思考・応用する問題演習を実施する。 	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①ICTを用いた発表の評価と年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析 ②年間15回程度の小テストと年間3回の定期考査を実施した内容の分析 		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に実験や観察に取り組み、科学的用語を用いて自分の考えを表現できる生徒が増えた。 ・小テストや定期考査の結果から、思考・応用する問題の正答率を高めることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識を身に付けることができたが、発表など周囲に向けて表現が難しいと感じられた。 	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周囲との話し合い活動や発表を通して、身に付けた知識を活用できるような場面を設定し指導する。 		
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>理解していることを活用して、表現できる生徒。</p>			

〈授業改善推進プラン 令和5年度第1学年 音楽科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

授業評価アンケートにおいて、「興味・関心」の項目に関しては全員Aの当てはまるとなっているが、理解度に関してはCの「あまり当てはまらない」が25%となっており、少々課題がある。

昨年度の器楽の練習では、自身のパート練習だけではなく、声をかけ合い、アンサンブルを楽しむ姿が見られた。また、創作活動を取り入れた器楽合奏では、自分で音を鳴らしながら条件に合った音を探し、周りとのバランスを考えながら主体的・協働的な活動をすることができ、音楽に対する興味・関心を引き寄せられることができた。

今年度の課題である歌唱分野においては、数年間歌唱できる状態ではなかったことと変声期が重なり、良い発声の仕方を忘れてしまっている。“声量”が大きいければ、できるという自信を持つ生徒が多い。しかし、聴いて分かりやすい“声量”という技能面が思うように上手いかず、「できる」を体感しづらくなっている。恥ずかしがらずに人前で発表する力をもっているのだから、この力を生かしつつ歌唱分野をさらに発展させていく。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容

「基礎的・基本的な演奏技能を習得する」ことが課題として挙げられている。その改善策として、言葉の発音と発声について個に応じた指導を行った結果、個に応じた指導によって、基礎的な技能が効率よく身に付いたようである。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

歌唱分野において、基礎的な技能は身に付いている。課題である「声量」に関しては、発声練習の工夫が必要と考え、空間を広く自由に使いながら顔や身体全体を動かす場面を設けている。また、録音・録画をすることにより、以前からどのように変化しているのか、自分で確かめることができるので、「できる」につながっていくと考えている。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①授業内の実技発表を実施する。
- ②フォームを使ったアンケートを実施する。

＜検証方法＞

- ①授業内での実技発表の分析
- ②授業内で行ったアンケートの分析

4. 検証結果(成果と課題)

＜成果＞

発声から見直し、身振り手振りを使って発声練習をした結果、きれいな声を出そうとする意識をもって歌唱分野に取り組んでいた。

＜課題＞

歌唱分野では、パートによって自信を無くしてしまうことがあり、声が思うように出ないことがある。

5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・合唱では合同音楽により、上級生から良い刺激をもらった。上級生のよい発声を感じ取りながら、さらに音楽的な合唱ができるように指導していく。

6. 令和6年度(次学年)末に期待する生徒の姿

感性に頼るのではなく、根拠をもって様々なことを説明できる生徒。

〈授業改善推進プラン 令和5年度第1学年 美術科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度前期授業評価アンケートでは、「美術科の学習を通して、この教科への興味・関心を高めることができるか」という項目に関して、100%が「あてはまる」、また、「この教科の学習内容について、現在どの程度、理解しているか」という項目に関しては、50%が「100～75%」、残りの50%が「50～25%」と回答している。以上の調査や授業観察の結果から、授業への興味・関心は高いといえるが、学習内容の理解や確実な定着については課題が見られる。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】与えられた課題を深く理解し、考えや思いの方向性を検討する。</p> <p>【改善策】「表現したい」という欲求がとて強いため、どのように活動するかを深く考えさせるために、ワークシートでイメージや工程を整理したり、図示したりする。児童が自分の感覚や気持ちを大切にしながら、発想を刺激し合いながらグループで造形活動を考える場を設定する。</p> <p>【評価】導入からワークシートを用いてスモールステップを設け、工程を整理しながら進めることによって、進度の差が出てそれぞれが目標を明確に活動に取り組むことができていた。また、個々のアウトプットしたものをグループで鑑賞したり考えを話し合ったりする活動の中で、課題への理解が深まり、自分の制作に生かそうという姿勢が見られた。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> 現象や対象を観察しながら描くなどの活動をする際に、描き始める前に観察して発見したことや考えたことを記述し、描くときにどうすればよいかを生徒自身が分析することで、明確になった課題への対処を通して『できる』感覚を経験できる。 Google クラウドで配付したデジタルの振り返りワークシートを用いて、生徒が自己評価をしながら個々の課題を明確にし、次に向けた目標を自ら設定する。また、それらの記述を指導と評価の一体化及び授業改善に役立てる。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施をする。</p> <p>②年間3回の定期考査の実施をする。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析</p> <p>②年間3回の定期考査の実施内容の分析</p> </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施をする。</p> <p>②年間3回の定期考査の実施をする。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析</p> <p>②年間3回の定期考査の実施内容の分析</p>
<p>＜方策＞</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施をする。</p> <p>②年間3回の定期考査の実施をする。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析</p> <p>②年間3回の定期考査の実施内容の分析</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 図工から美術への学習の移行は特に問題なくできた。既習事項を活用した実践や定期考査を重ねながら、多くの生徒が学習内容の定着や『わかる』、『できる』の実感につながられているという自覚をもつことができています。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 一部の生徒が、授業で学習した内容や身についた力について、定期考査で適正な測り方ができなかった。問いの設定を見直すことよりも、どのように解答するかを理解させる必要を感じた。時数35時間に対しての定期考査の在り方を見直す必要もあるが、それを変えられないのであれば、テストのための学習時間を設けて支援していく必要があることが課題である。 	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒がより個性を生かした創造活動に取り組めるように、生徒の実態に応じた弾力的な学習を計画、実践していく必要がある。発達の特性に応じた題材を常に検討しながら、他教科との教員とも連携して、それぞれの学年において育成する資質・能力を効果的に身に付けられるように指導計画を常に修正していくことが大切である。 定期考査で点数として表われた結果が、生徒の授業内容の理解度や目標の達成率とリンクするような指導と評価の一体化を図っていく。特に生徒がもっている能力が低い場合には、適正な評価が得られるよう定期考査につなげていく力を養うような支援をするとともに、出題の工夫を試みる。 		
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>造形的な感覚を養いながら、自ら主題を生み出し、創造したことを主体的に表現しようとする生徒。</p>			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第1学年 保健体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・授業評価アンケートの結果より、「教科の関心を高められているか」、「内容を理解しているか」という質問に対して、全生徒が肯定的にとらえている。一方、「授業で身に付けたことがどのようなときに活かされるか」という質問については、体力の向上に関する内容にとどまっており、学習内容を十分に深めることができていないことが課題である。・新体力テストでは、全国平均を上回る種目が多かったが、握力とハンドボール投げに課題がある	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】①基礎体力を向上する。 ②課題について、思考・判断し、他者に伝える力を育成する。</p> <p>【改善策】①体力テストの結果より、自己に必要な体力についてデータを示す。目標を設定し、継続的に運動に取り組ませる。 ②学習カードやICT機器を活用し、視覚的に分かりやすいようにするとともに、仲間と意見を交換する機会を設け、理解を深めさせる。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・体力やコーディネーション能力の向上を目的とした補強運動の設定や多様な運動を経験することで、バランスのよい体力の向上を目指している。・学習カードやICT機器を活用し、運動のポイントが視覚的に分かりやすいように工夫している。・自己の考えたことを他者に伝える機会をつくり、探求的に活動し、学習内容が定着するようにしている。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none">①年間2回の授業評価アンケートの実施をする。②授業内の実技発表をする。	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none">①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析②授業内の実技発表の分析
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none">・後期授業評価アンケートの結果より、「授業内容を理解している」「興味・関心を高めている」という生徒が100%になり、主体的な学びを促すことができた。・基礎体力が向上し、取り組むことのできる技や技能が増えた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none">・授業中の課題改善について、生徒の意見交換を活発にすることが課題である。	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・複式学級における男女共習授業であることを配慮し、より多くの生徒の意見を共有し、学びを深めることができる環境を整える。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>生徒自身が心と体を一体として捉え、積極的に豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を伸ばしている。</p>	

〈授業改善推進プラン 令和5年度第1学年 技術科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・学習における課題設定と、振り返りを習慣化させることが求められる。・実践的・体験的な学習活動では、全ての生徒が意欲的に取り組んでいるが、知識の習熟で生徒によって差が生じることがある。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・授業冒頭で学習内容の定着を把握するための小テストを実施し、次時の学習内容をワークやプリントで予習させ、授業内で確認する。定着していない学習内容を把握し、すぐに指導をできる環境を整える。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・学習振り返りシートを用意し、毎時間の授業の振り返りを家庭でできるようにする。・ノート、ワークシート、事前学習プリントを用いて知識の定着を図る。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①学習の理解度が本人にフィードバックされるように振り返りシートに記入させ、適切な支援を行う。</p> <p>②ノートやワークシートで課題に気付き、解決できる能力を身に付けさせる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①課題， 考査， 授業評価アンケート</p> <p>②課題， 考査， 授業評価アンケート</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・振り返りシートを活用することにより、教師の働きかけを効果的に実施することができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・ノートやワークシートを生徒自ら活用し、自己の学習を調整できる力に課題がある。	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・振り返りシートを改善し、生徒が1時間の授業だけでなく、単元のまとまり単位で自己の課題を改善していけるようにする。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>自分の考えや思いを、技術的な根拠を基に相手に伝えることができる生徒。</p>	

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第1学年 家庭科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・基礎的な知識の定着や、既習事項を活用しながら考えを深められている生徒が少ない。・実習や実験などの実践的で体験的な題材以外の興味関心が低い。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容 「基礎的・基本的な知識や技能の習得すること」、「調理や裁縫以外に関する題材への興味関心を高めること」を課題として挙げられている。その授業改善策として、可能な限り実習を取り入れることや、ICT機器の活用、授業のまとめとして動画を使用することで題材への興味関心を高め、知識の定着を促し、理解を深めさせることができたようである。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等 引き続きICT機器を活用しながら、実際にイメージをもって題材の内容を深められるような授業を展開する。また、実習や体験的な活動、グループワークを通して、興味関心を高めながら知識の定着を図る。</p>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①ワークの活用や視覚教材やICT機器を使用し、知識同士を結び付けながら定着させ、自身の生活を振り返りながら内容を深めさせられるように、生徒それぞれに応じた適切な支援を行う。②自身の生活と結び付けて考えられるように、身近な題材を取り上げながら、実践的で体験的な活動を増やしていく。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①授業内での課題や実習記録、年間3回の定期考査、年間2回の授業評価アンケート②授業内での課題や実習記録、年間3回の定期考査
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">①個に応じた支援や声掛けを行い、少しずつ知識を定着させることができた。②日常的な話題として既習内容があがり、自身の生活と結び付けながら学習を深めることができた。 <p><課題></p> <p>既習事項を活用して、実生活と結び付けながら考え、自身の生活をよりよく改善しようとする生徒が少ないことが課題である。</p>	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>生徒の興味関心を高められるように、実践的で体験的な活動を増やして知識の定着を促し、実生活と結び付けて考える機会を増やす。</p>
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>既習事項を活用して、実生活と結び付けながら考え、学習を深められる生徒。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第1学年 英語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・村学力調査において、「聞くこと」や「読むこと」に関する問題の校内正答率が90%を越えているのに対し、「書くこと」の正答率が82.8%と低い。・同調査において、「書くこと」の領域の中でも、「英作文」の正答率が70.0%と、とりわけ低い。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・「書くこと」については、令和3年度の当該の授業改善推進プランが策定されていない。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・大文字・小文字の区別やピリオド・コンマ等符号の書き忘れなどに、自ら気づき修正できる力を高められるよう指導を行う。・新出語句や文法事項の学習の際に、授業内で同一の内容を複数の方法で複数回学ぶ機会を設け、反復学習を取り入れた指導を行う。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①授業内で教科書本文の筆写を行う時間を設け、正しく写せているか個別にチェックする。誤りがある場合は、誤りの数のみ指摘し、自ら再確認し、修正する方法を設ける。</p> <p>②生徒用タブレット内のデジタル教科書を活用した個別学習や、互いに問題を出し合うペア活動、家庭学習での反復練習を通して新出語句や文法事項の学習を行う。</p>	<p><検証方法></p> <p>① 1セクションごとのノート点検</p> <p>② 1セクションごとの小テスト</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・大文字と小文字の区別に関する誤りや、符号の付け忘れに自ら気づき、修正する力を高めることができた。・基本的な語句の発音や意味、綴りの定着を図ることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・小テストで正答できた語句でも、自分のことを表現する活動においてうまく活用できない場面も見られた。	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・語、連語及び慣用表現等の言語材料を言語活動と関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるよう指導する。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>日常的な話題について、まとまりのある文章を書くことができる生徒。</p>	